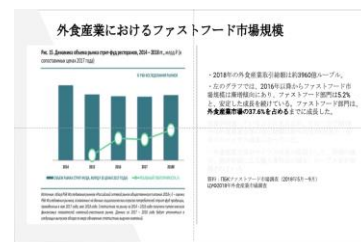


～ロシアの外食産業市場のご案内～

ロシアの外食市場の規模と傾向：

ロシアにおける外食産業は毎年拡大を続け、2018年のロシアの外食産業取引総額は約3960億ルーブル（約6200億円）にのぼります。中でも市場成長率の高い地域は100万人規模の都市に顕著で、特にファーストフード店の伸びは著しく、外食産業市場の37.6%を占めるまでに成長しています。ファーストフードなどの低価格帯と高価格帯については市場の拡大が見られるものの、中間価格帯の価格競争が激しくなっています



ロシアの外食店舗数

ロシアには、15の100万人都市がありますが、この15都市のレストラン・カフェ総数のうち、37%がモスクワ、19%がサンクトペテルブルグにあります。この二都市のレストラン・カフェの総数は約2万2千店で、ロシア全体の2割強を占めています。2015年以降、外食産業全体では店舗数は増加傾向にあり、レストラン・カフェ・バーは24%、大衆食堂・軽食店は9%増加しています

]



●食のトレンド：

ロシアの外食市場は現在多様化が進んでいます。一般意識調査で「どんな料理を普段外食で食べたいと思うか」の問いに対して、35%の人がロシア料理と答え、20%の人はこだわりのないと答えています。また、調査では健康志向の高まりと安全で安心な食べ物を求める傾向が現れており、特に無農薬や天然のものを好み、アルコール摂取などは控える傾向があります。

●今後の飲食市場の成長

経済制裁による影響もあるものの、外食市場は拡大しておりロシア国内の投資家も飲食分野に注目をしています。高級で大型のレストランの開店数は減少し、代わりに高額な機器や投資を必要としない規模の飲食店が増加傾向にあります。一方、デリバリーフード市場は前年比19%増と大きく成長。特に大都市においては前年度比で60%以上の成長率が見られます。これまではデリバリーフードはパーティーなどで利用されることが一般的でしたが、近年はランチや夕食など一般的に利用する傾向が高くなっています。

●アフターコロナのロシアにおける外食市場の展望：

コロナ後の外食産業についてロシアの外食産業有識者はインタビューで次のように述べています。

「中間価格帯の外食市場が大打撃。コロナ後では寿司・ファーストフード・ピザなどの軽食分野が生き残る可能性が高い。富裕層はコロナの直接的な影響が少ないため、高価格帯の外食産業も継続できる可能性が高い。」

「フードコートや市場スタイルなど、一箇所で多様な料理を楽しむ外食形態の人气が高まる。（投資家が投資回収しやすい業態。低価格帯のものが多く、消費者にとって気軽な外食形態となるため）」

※資料出典：MTC Japan